1. 平 均 気 温
2. 気 温 日 較 差

1. 平均気温

真の平均気温を算出する方法は、1日中定間隔にひんぱんに観測を繰り返し、その算術平均値を求めることである。しかし、この方法の採用は労力と経費の面から困難である。近似的な平均気温を算出する方法は、1日の最高気温と最低気温の算術平均を日平均気温（M_2）とする。またこの方法は精度が悪いため1日8回定時（0、3、6、9、12、15、18、21の各時）観測をおこない、その算術平均を日平均気温（M_8）とすることもおこなわれている。わが国では気象庁の気象官署（約150地点）でこの観測をおこなっている。

気温、降水量など各種気象要素の月や年の平均値は、過去30年間の平均値を平年値とする国際的とりきめがある。現在の平年値は1941～1970年の30年間の平均値で、この値は1951～1980年の平均値が算出されるまで用いられる。

800万分1平均気温は全国の気象観測所約1,200地点の最高、最低気温による平均気温（M_2）の平均値によって作図した。しかし小笠原諸島、歯舞諸島、国後島、択捉島などの平均気温は、1941～1970年の平年値がないので、1943年までの値とこれらの地域に隣接する地点の観測値を使用して補正し、平年値を推定した。

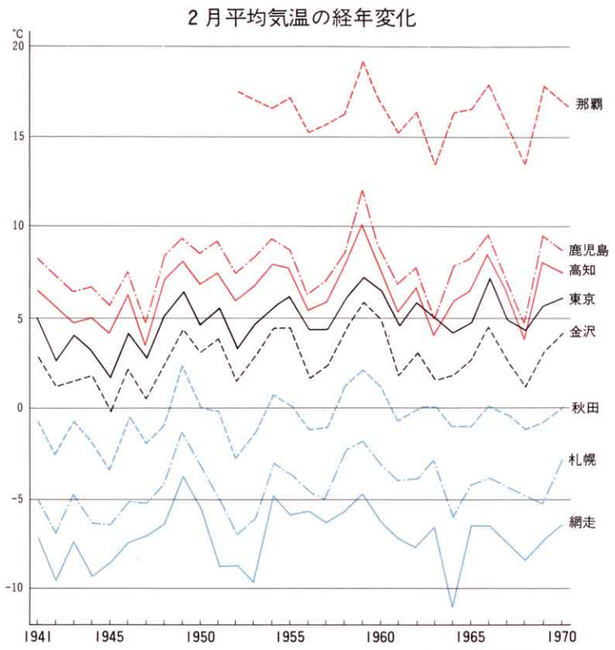
平均気温の補正値は、1日8回観測の平均気温（M_8）と最高、最低の平均気温（M_2）との差である。全国の気象官署（約150地点）の観測値から算出した補正値は、全般的に0℃～－1.0℃の間に分布し、地域や季節などに関する明瞭な傾向を見出せなかった。

気温の年ごとの変化は降水量のそれと違って、出現の頻度はほぼ正規分布に近い分布を示している。1941～1970年の平均気温（M_8）の標準偏差を等値線で表わした。

〔資料〕

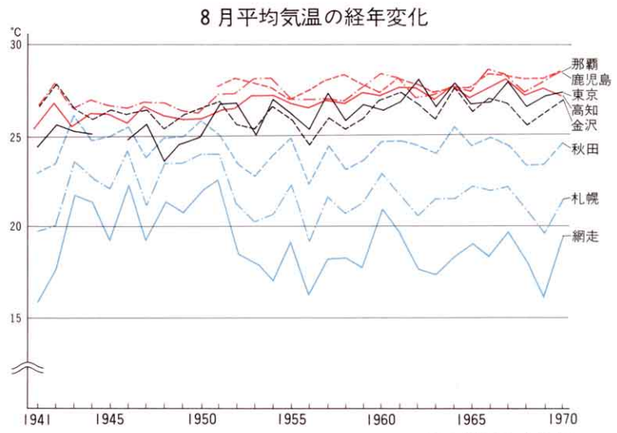
1．気象庁，日本気候表　その1　月別平年値（1941～1970），1971
2．気象庁，全国気温・降水量月別平年値表　観測所観測（1941～1970），1972
3．中央気象台，累年気候表　日本および極東地域，1954
4．気象庁，累年気候表（1951～1960），1969
5．気象庁，累年気候表（1961～1970），1972
6．気象庁，日本気候図　第1集，1971

2月平均気温の経年変化



（日本気候表から作成）

8月平均気温の経年変化



（日本気候表から作成）

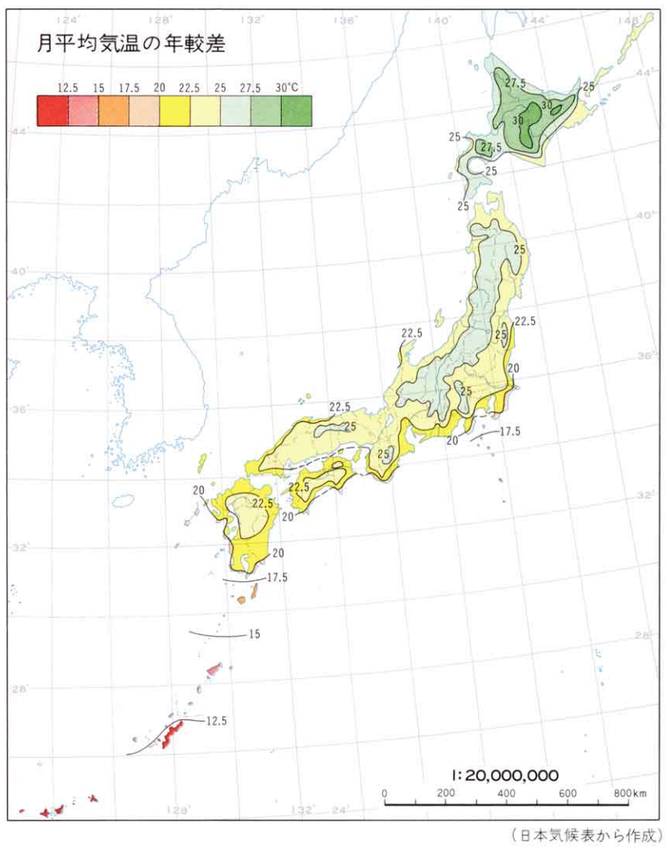
2. 気温日較差

気温日較差とは、1日のうちの最高気温と最低気温の差で、一般に内陸部で大きく沿岸部で小さい。この図は、気象官署の値を使用したが、これらの地点の間隔の大きな部分についてはおもな気象観測所の値を使用した。

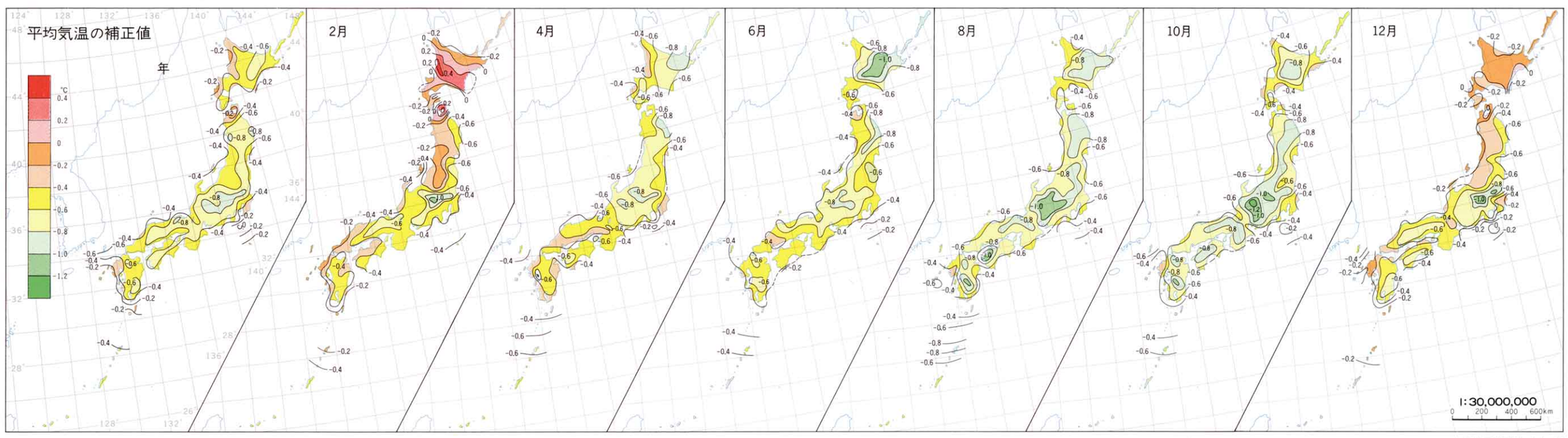
月平均気温の年較差とは、月平均気温の最暖月の値と最寒月の値の差である。年較差の算出はM_8の値を使用した。

〔資料〕

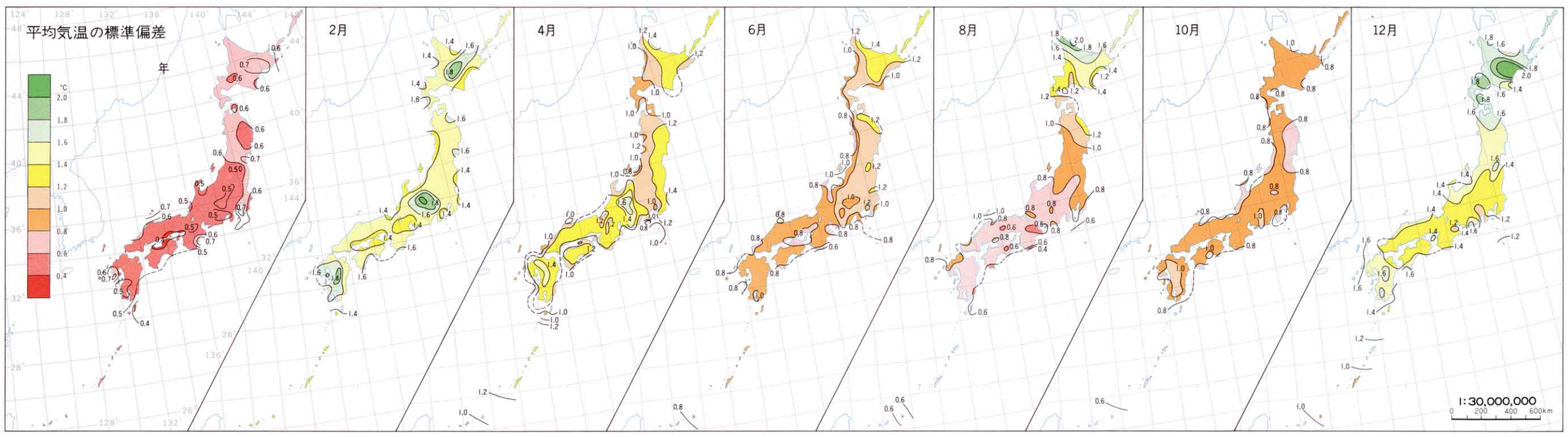
1．気象庁，日本気候表　その2　地点別月別平年値（1941～1970），1972



（日本気候表から作成）

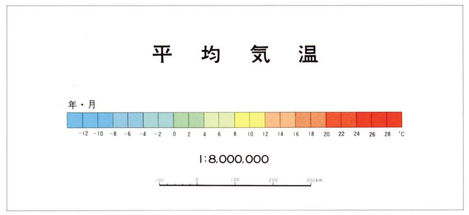


（日本気候表から作成）

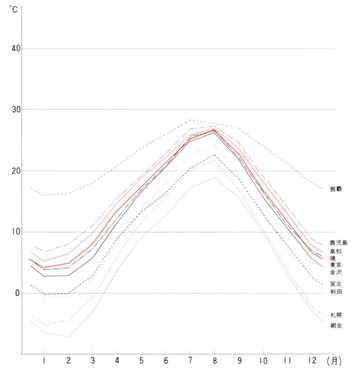


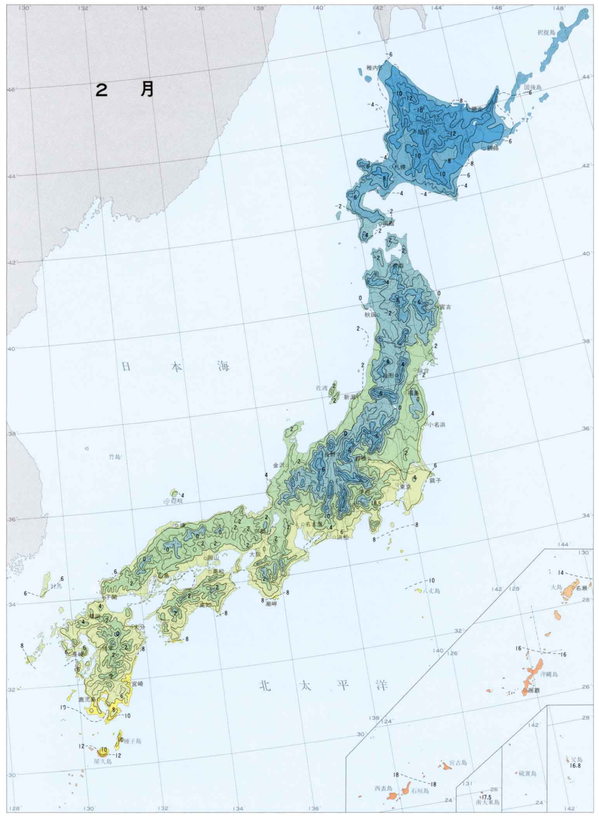
（日本気候表から作成）

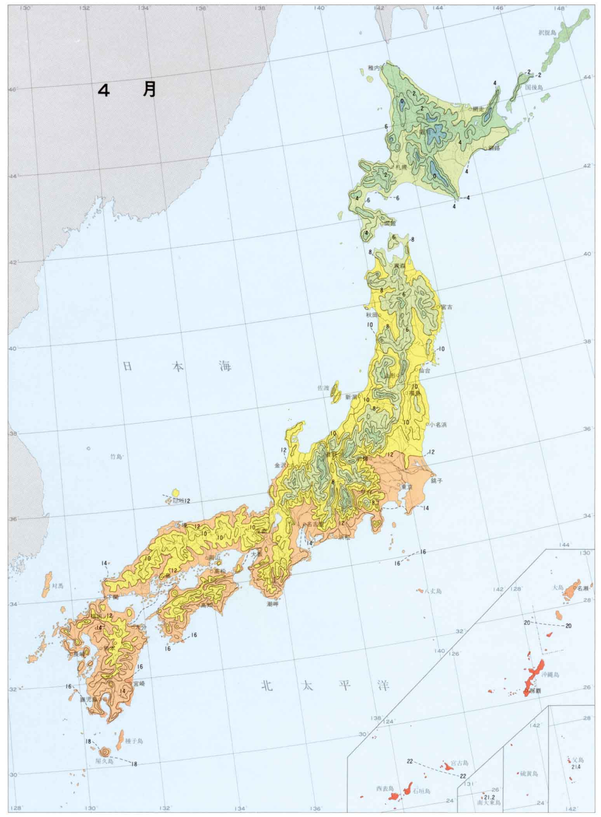
12.1

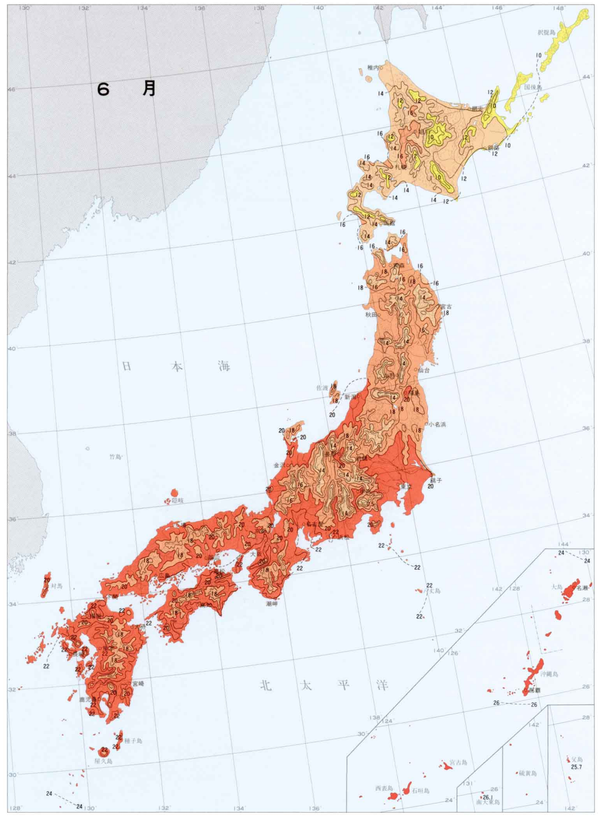


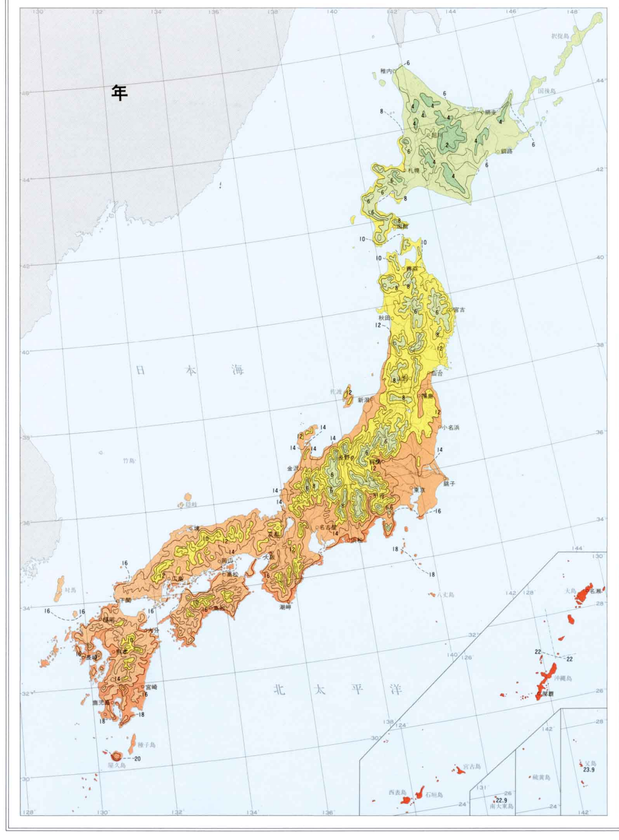
おもな地点の年変化

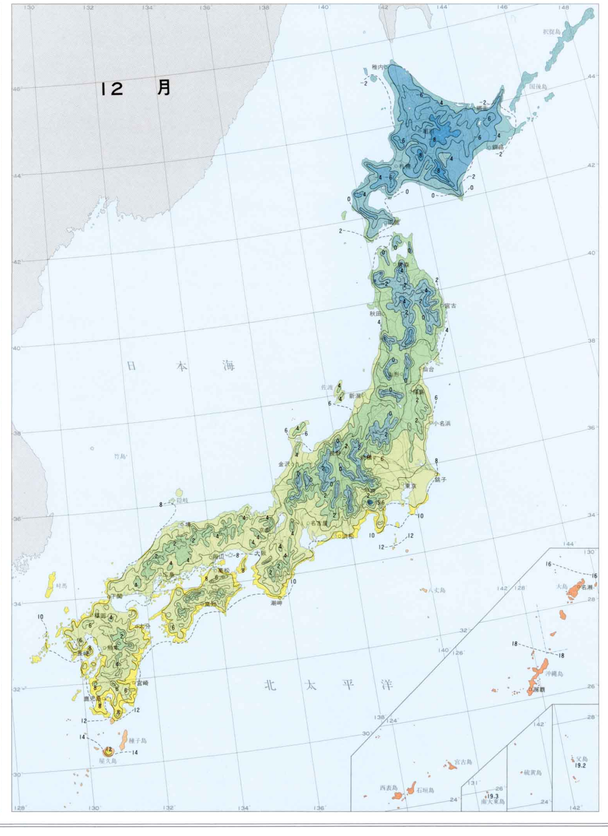


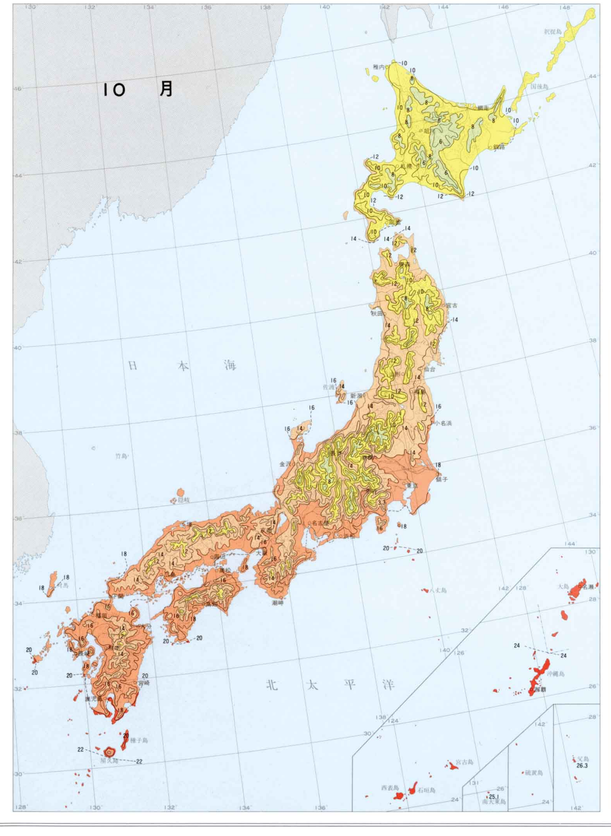


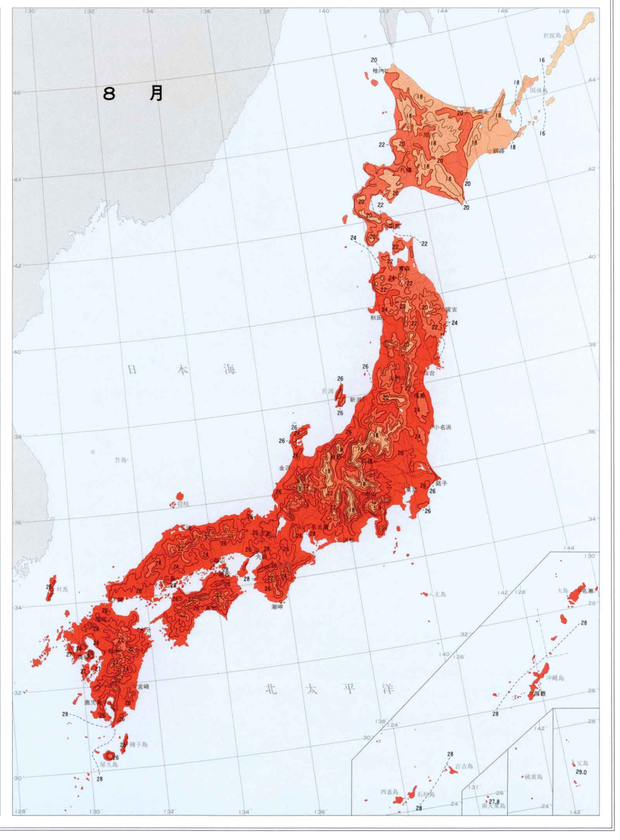




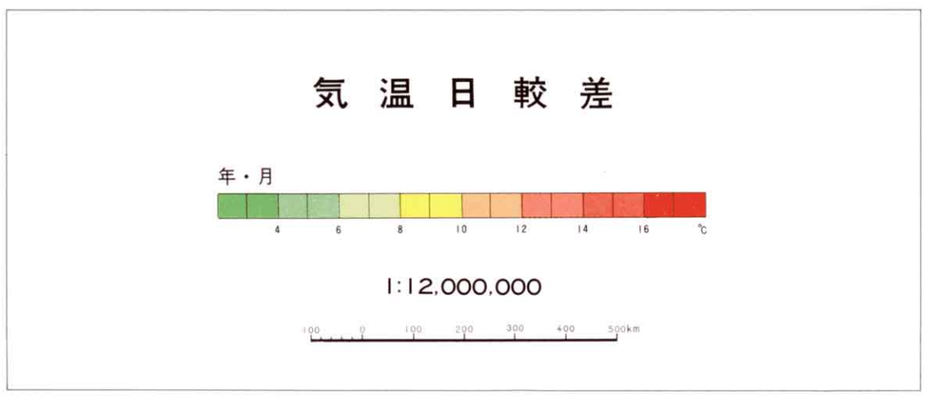


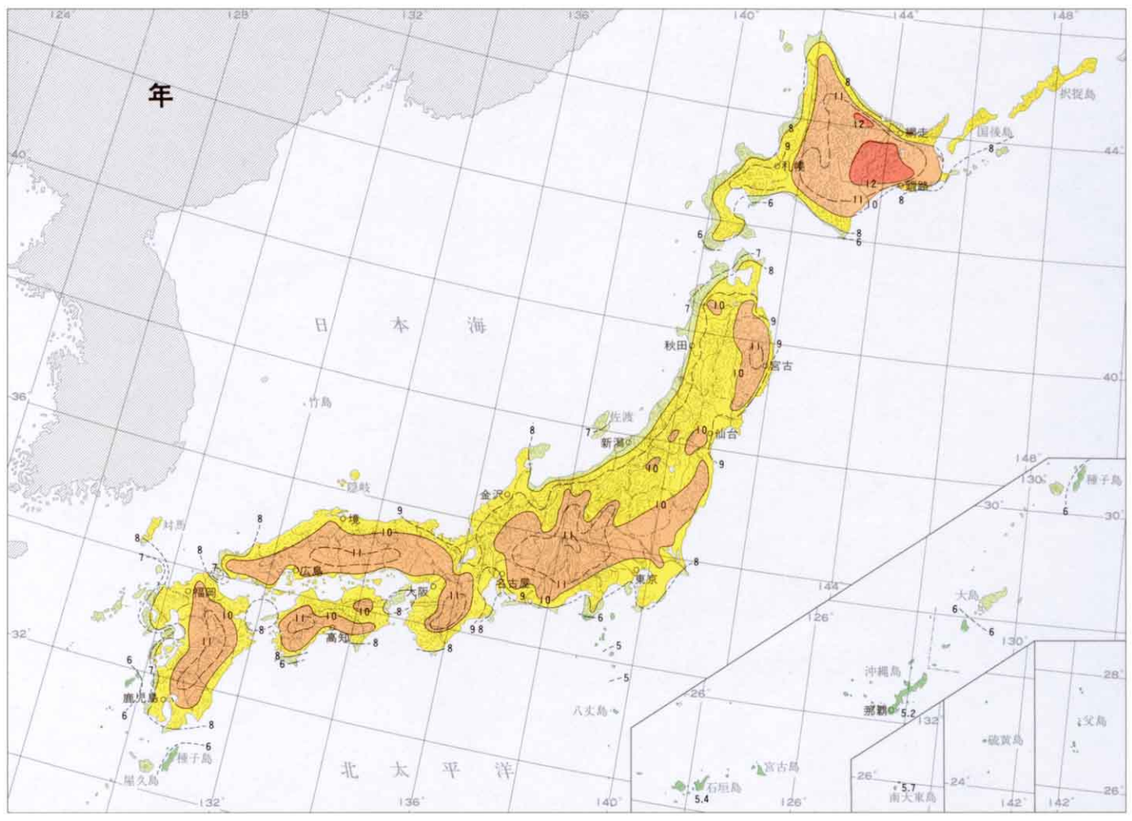


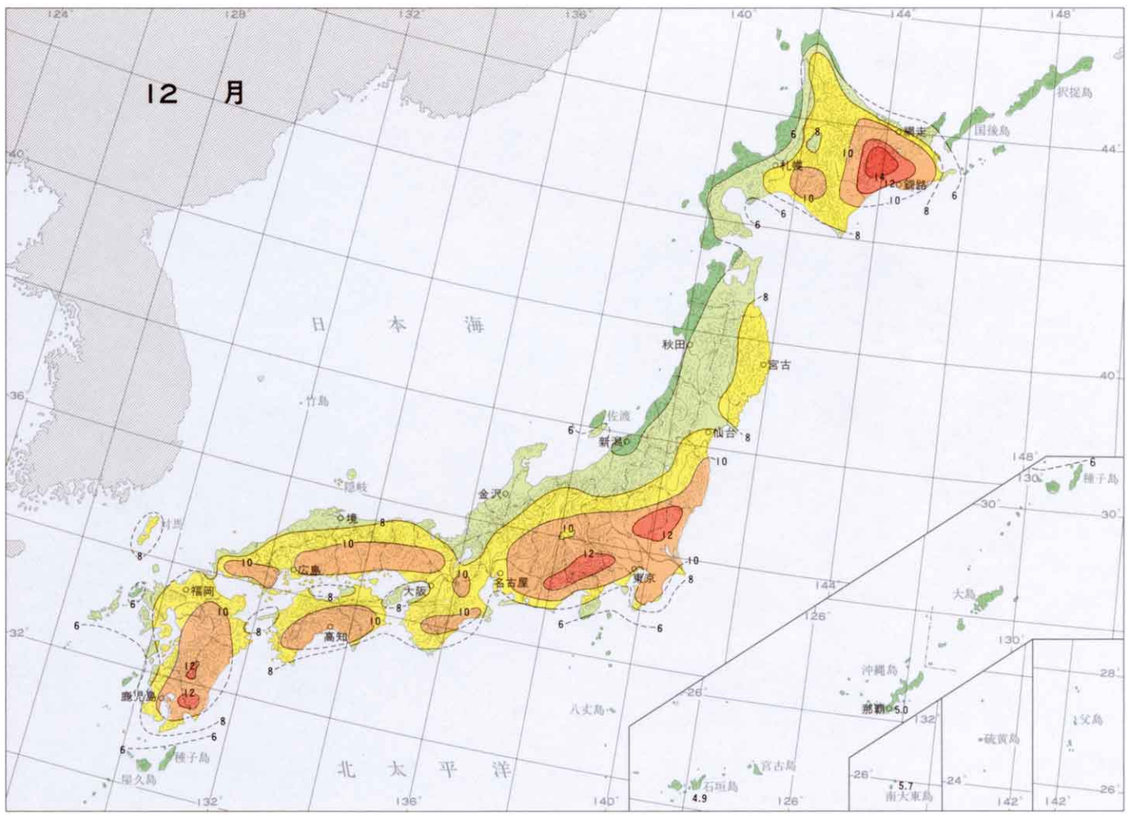


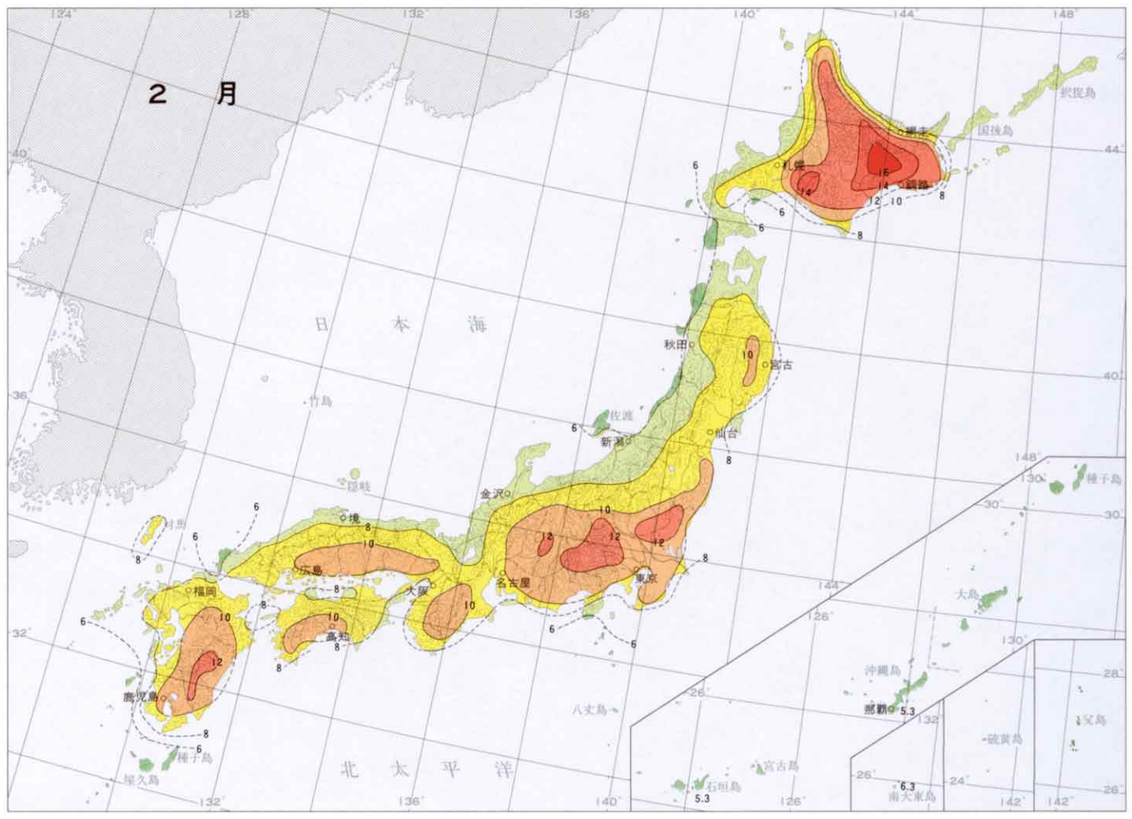


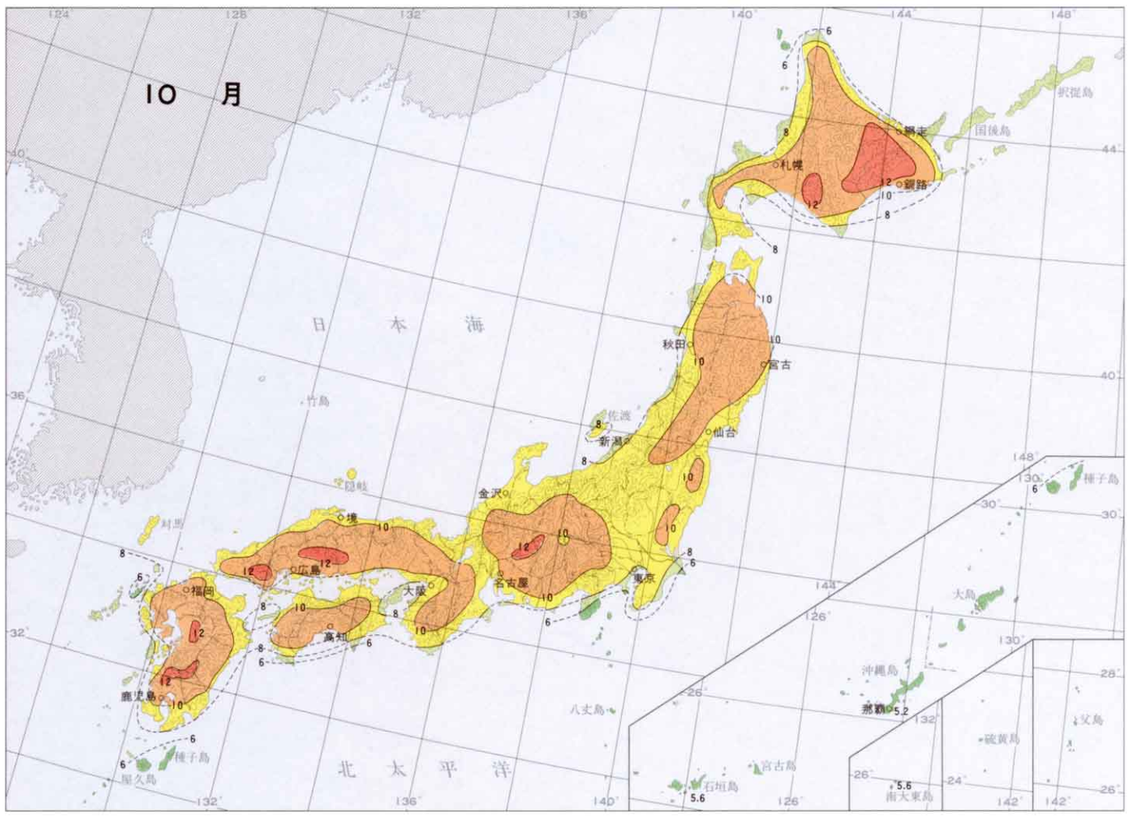
12.2

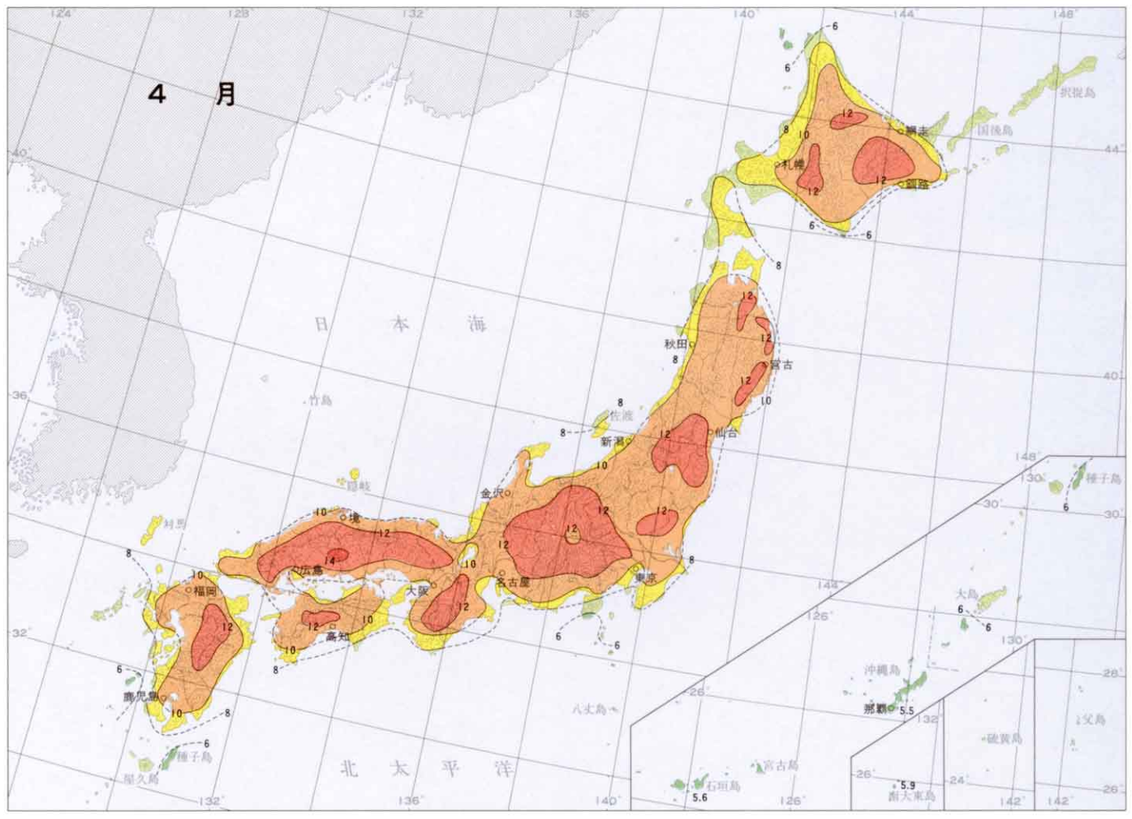

気温日較差
年・月
4 6 8 10 12 14 16 ℃
1:12,000,000
100 0 100 200 300 400 500km

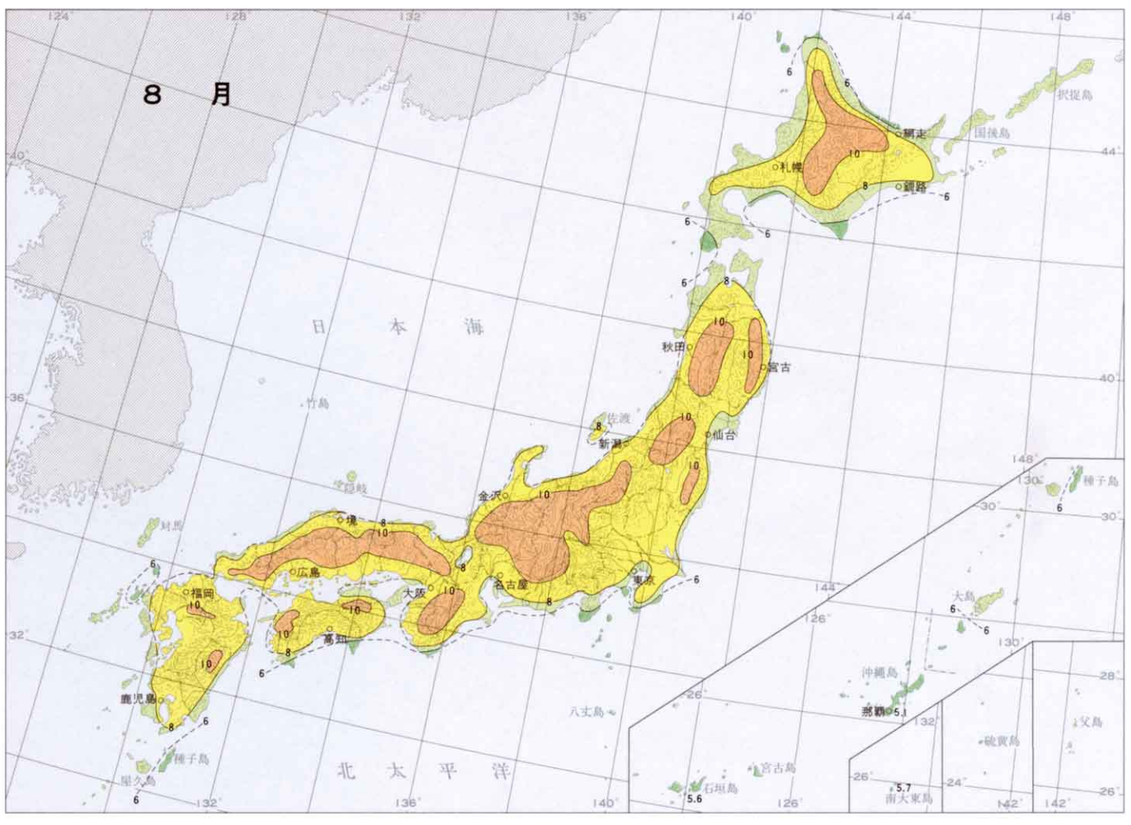

年
日本海
北太平洋

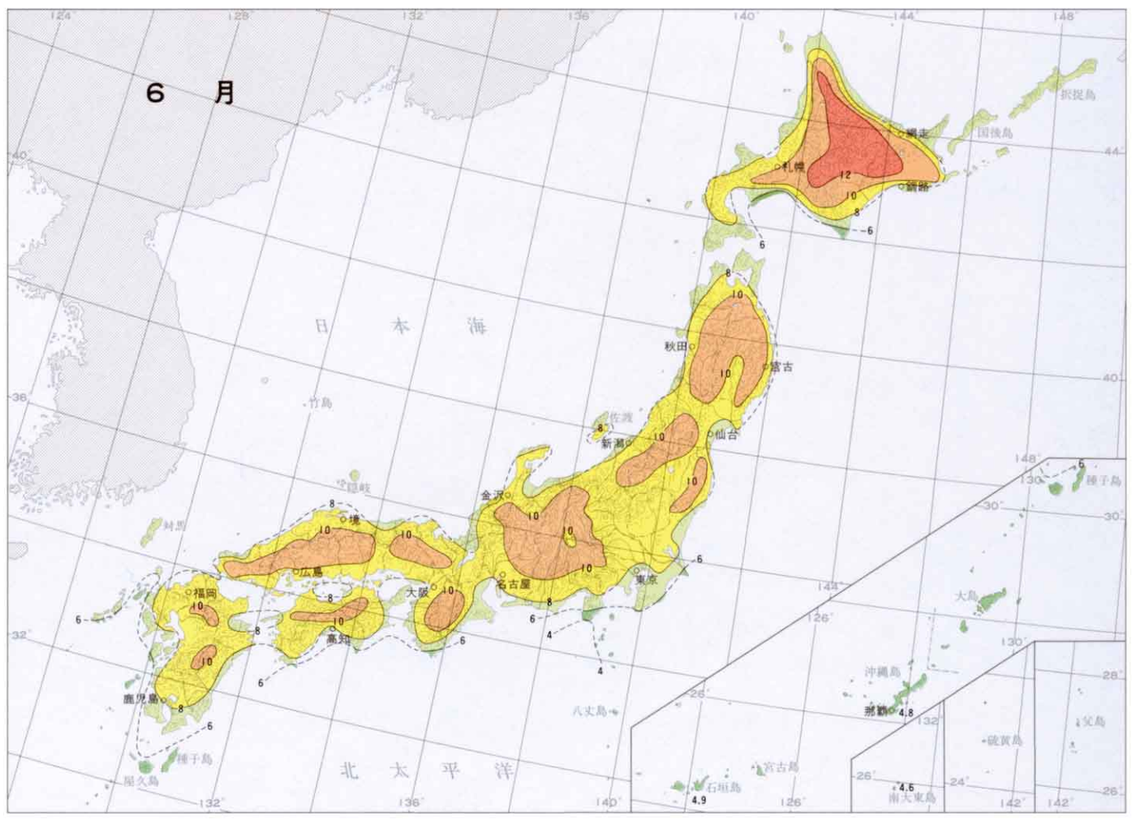

12 月
日本海
北太平洋


2 月
日本海
北太平洋


10 月
日本海
北太平洋


4 月
日本海
北太平洋


8 月
日本海
北太平洋


6 月
日本海
北太平洋